

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成27年1月13日
【四半期会計期間】	第47期第3四半期（自平成26年9月1日至平成26年11月30日）
【会社名】	株式会社柿安本店
【英訳名】	Kakiyasu Honten Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 赤塚 保正
【本店の所在の場所】	三重県桑名市吉之丸8番地
【電話番号】	(0594)23-5500(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 赤塚 義弘
【最寄りの連絡場所】	三重県桑名市吉之丸8番地
【電話番号】	(0594)23-5500(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 赤塚 義弘
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第46期 第3四半期連結 累計期間	第47期 第3四半期連結 累計期間	第46期
会計期間	自平成25年 3月1日 至平成25年 11月30日	自平成26年 3月1日 至平成26年 11月30日	自平成25年 3月1日 至平成26年 2月28日
売上高 (百万円)	30,471	31,220	42,546
経常利益 (百万円)	1,447	1,519	2,202
四半期(当期)純利益 (百万円)	735	711	1,141
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	755	740	1,144
純資産額 (百万円)	12,637	13,292	13,026
総資産額 (百万円)	18,346	19,099	18,170
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	59.37	60.05	93.18
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	68.9	69.6	71.7

回次	第46期 第3四半期連結 会計期間	第47期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成25年 9月1日 至平成25年 11月30日	自平成26年 9月1日 至平成26年 11月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	14.00	14.77

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第47期より金額の表示単位を千円単位から百万円単位へ変更しております。なお、比較を容易にするため第46期についても百万円単位に組替えて表示しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクに重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループが判断したものであります。

(1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による経済・金融政策を背景に輸出企業の業績や雇用情勢が改善するなど緩やかな回復基調となりました。その一方で消費税率引き上げ後の個人消費の低迷や円安に伴う物価上昇懸念など景気の先行きは不透明な状況にあります。

食関連業界におきましては、連続した台風上陸や大雨などの天候不順や円安による原材料価格の上昇も加わり依然として厳しい経営環境が続いております。

このような環境の中、当社グループは店内調理による出来たてのおいしさの強化へ料理研修を徹底するとともに社内キャンペーンによる接客販売の向上を図るなど、基本の強化を通じ『おいしさ、育む。柿安』に取り組んでまいりました。

出退店、改装につきましては、「口福堂」25店による和菓子事業の展開を中心に計29店を出店いたしました。また、16店を改装し、6店の閉鎖を行いました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は31,220百万円(前年同期比2.5%増)、営業利益は1,487百万円(同4.0%増)、経常利益は1,519百万円(同5.0%増)、四半期純利益は711百万円(同3.2%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(a) 精肉事業

毎年恒例の「三重県フェア」「創業祭」や定例企画「いい肉の日」において「柿安牛」「プレミアムあぐ〜」や「プリンシャスポーク」などオリジナル商品の拡販・浸透強化に注力するとともに「あか牛」商品の育成に努めました。

また、主力大型店「小田急町田精肉店」や「新百合ヶ丘エルミロード精肉店」の改装を行いました。

この結果、当事業の売上高は10,603百万円(前年同期比0.6%増)、セグメント利益は851百万円(同5.3%増)となりました。

(b) 惣菜事業

カキフライをはじめグラタン・弁当など、牡蠣をテーマにした商品やワインに合うサラダ・惣菜セットなどの季節商品、ローストビーフの拡販により集客を図りました。

出店につきましては、タカシマヤフードメゾン岡山ダイニングを出店いたしました。

この結果、当事業の売上高は9,128百万円(前年同期比0.4%増)、セグメント利益は715百万円(同7.7%減)となりました。

(c) 和菓子事業

今秋収穫の新小豆によるおはぎの新商品「おはぎヌーボー」や冬の定番商品「いちご大福」の早期投入により季節の演出を向上させるとともに三重県フェア限定商品「伊勢茶だんご」やどら焼の新商品「いちごクリームどら焼」「ホワイトチョコどら焼」などにより品揃えの強化を進めました。

この結果、当事業の売上高は4,633百万円(前年同期比25.1%増)、セグメント利益は267百万円(同77.5%増)となりました。

(d) レストラン事業

ビュッフェレストラン「三尺三寸箸」において美容栄養アドバイザー石坂優子氏監修による季節ごとの身体にやさしい食材を使用した「キレイをつくる彩旬コーナー」やカキフライやローストビーフの特別プレートの提供などによりメニューの強化を図るとともに好評のモーニングビュッフェ企画を新たにランチ対応に変更し利便性の向上を行いました。

また、グリル業態においても定例の肉の日企画のステーキメニューの強化や季節商品の刷新を図りました。

この結果、当事業の売上高は4,370百万円(前年同期比5.2%減)、セグメント利益は252百万円(同14.0%減)となりました。

(e) 食品事業

「黒毛和牛サーロインステーキ煮」をはじめギフト商品の刷新により年間最大の販売機会である歳暮ギフト商戦への強化を図りました。また、「牛すじカレー」「豚角煮カレー」などレトルトカレーシリーズの全面刷新、まぜご飯の素シリーズや「帆立うすだき」の試食販売充実による自家需要向け商品の拡販を行いました。

この結果、当事業の売上高は2,484百万円(前年同期比1.2%減)、セグメント利益は348百万円(同15.0%増)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ929百万円増加し、19,099百万円となりました。

流動資産は600百万円増加し、10,946百万円となりました。その主な要因は、現金及び預金が906百万円減少したものの、売掛金が1,138百万円、仕掛品が332百万円それぞれ増加したことによるものであります。固定資産は328百万円増加し、8,153百万円となりました。その主な要因は、建物及び構築物が116百万円、差入保証金が58百万円それぞれ増加したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ662百万円増加し、5,806百万円となりました。

流動負債は783百万円増加し、4,816百万円となりました。その主な要因は、買掛金が362百万円、未払消費税等が278百万円それぞれ増加したことによるものであります。固定負債は121百万円減少し、990百万円となりました。その主な要因は、長期借入金が127百万円減少したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ266百万円増加し、13,292百万円となりました。その主な要因は、利益剰余金が237百万円増加したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更等はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	46,300,800
計	46,300,800

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年11月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年1月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	12,446,700	12,446,700	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	12,446,700	12,446,700	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成26年9月1日～ 平成26年11月30日	-	12,446,700	-	1,269	-	1,074

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年8月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年11月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 600,500	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 11,844,100	118,441	-
単元未満株式	普通株式 2,100	-	-
発行済株式総数	12,446,700	-	-
総株主の議決権	-	118,441	-

（注）「完全議決権株式（その他）」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が300株（議決権の数3個）含まれております。

【自己株式等】

平成26年11月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
株式会社柿安本店	三重県桑名市吉之丸8番地	600,500	-	600,500	4.8
計	-	600,500	-	600,500	4.8

2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年9月1日から平成26年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年3月1日から平成26年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

3．金額の表示単位の変更について

当社の四半期連結財務諸表に表示される科目その他の事項の金額は、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。

なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第3四半期連結累計期間についても百万円単位に組替え表示しております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,021	6,115
受取手形及び売掛金	2,441	3,579
商品及び製品	247	298
仕掛品	124	457
原材料及び貯蔵品	167	190
繰延税金資産	221	269
その他	121	34
貸倒引当金	0	-
流動資産合計	10,345	10,946
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,345	3,461
土地	2,282	2,282
その他(純額)	694	752
有形固定資産合計	6,321	6,496
無形固定資産		
その他	119	117
無形固定資産合計	119	117
投資その他の資産		
投資有価証券	196	243
繰延税金資産	246	261
差入保証金	732	790
その他	207	243
投資その他の資産合計	1,383	1,539
固定資産合計	7,824	8,153
資産合計	18,170	19,099
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,222	1,584
未払金	575	500
未払法人税等	528	297
未払費用	926	1,082
賞与引当金	363	548
役員賞与引当金	31	27
その他	384	774
流動負債合計	4,032	4,816

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
固定負債		
長期借入金	532	405
退職給付引当金	16	4
資産除去債務	464	477
その他	98	103
固定負債合計	1,112	990
負債合計	5,144	5,806
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,074	1,074
利益剰余金	11,498	11,736
自己株式	817	817
株主資本合計	13,025	13,263
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	0	29
その他の包括利益累計額合計	0	29
純資産合計	13,026	13,292
負債純資産合計	18,170	19,099

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)
売上高	30,471	31,220
売上原価	16,110	16,177
売上総利益	14,361	15,043
販売費及び一般管理費	12,931	13,556
営業利益	1,429	1,487
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	1	1
受取ロイヤリティー	-	7
保険解約返戻金	5	-
その他	22	33
営業外収益合計	31	45
営業外費用		
支払利息	9	7
その他	5	6
営業外費用合計	14	13
経常利益	1,447	1,519
特別利益		
固定資産売却益	-	0
特別利益合計	-	0
特別損失		
固定資産除売却損	6	6
減損損失	55	171
その他	3	0
特別損失合計	64	178
税金等調整前四半期純利益	1,382	1,341
法人税、住民税及び事業税	681	709
法人税等調整額	34	79
法人税等合計	647	630
少数株主損益調整前四半期純利益	735	711
四半期純利益	735	711

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	735	711
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	20	29
その他の包括利益合計	20	29
四半期包括利益	755	740
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	755	740
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)
減価償却費	459百万円	472百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)

1. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月30日 定時株主総会	普通株式	435	35	平成25年2月28日	平成25年5月31日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

(自己株式の取得)

平成25年10月29日開催の取締役会において自己株式の取得を決議し、平成25年10月30日付で自己株式600,000株(取得価額816百万円)の取得を実施いたしました。これにより、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が817百万円(600,470株)となりました。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月29日 定時株主総会	普通株式	473	40	平成26年2月28日	平成26年5月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	10,535	9,090	3,704	4,609	2,514	30,454	17	30,471	-	30,471
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,200	12	108	21	264	1,607	-	1,607	1,607	-
計	11,735	9,103	3,812	4,631	2,779	32,061	17	32,079	1,607	30,471
セグメント利益 又は損失()	808	775	150	293	303	2,331	3	2,328	898	1,429

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 898百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 931百万円及びその他調整額33百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「惣菜事業」、「レストラン事業」セグメント及び「全社資産」において、店舗設備及び東京本部施設移設統合に伴う減損損失をそれぞれ5百万円、26百万円、22百万円計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において、55百万円であります。

当第3四半期連結累計期間（自平成26年3月1日至平成26年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	10,603	9,128	4,633	4,370	2,484	31,220	-	31,220	-	31,220
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,129	14	83	46	233	1,507	-	1,507	1,507	-
計	11,733	9,142	4,716	4,417	2,717	32,728	-	32,728	1,507	31,220
セグメント利益	851	715	267	252	348	2,435	-	2,435	948	1,487

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。
 2. セグメント利益の調整額 948百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 980百万円及びその他調整額32百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「精肉事業」、「惣菜事業」、「和菓子事業」及び「レストラン事業」において、店舗設備の減損損失をそれぞれ5百万円、20百万円、14百万円、131百万円計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において、171百万円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)
1株当たり四半期純利益金額	59円37銭	60円05銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	735	711
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	735	711
普通株式の期中平均株式数(千株)	12,378	11,846

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 1月 7日

株式会社柿安本店

取締役会 御中

東陽監査法人

指 定 社 員 公認会計士 谷本 勝則 印
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公認会計士 高津 清英 印
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社柿安本店の平成26年3月1日から平成27年2月28日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年9月1日から平成26年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年3月1日から平成26年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社柿安本店及び連結子会社の平成26年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれておりません。